

2.9 感染者数と死者数の動向はどうでしょうか？

世界での感染者数は480万人を突破し、死者数も31万人を超えるに至っています（5月18日現在）。日本では、感染者数は累計で16,305人に対し、死者数は749名で、致死率としては4.6%です。これは、あくまでも累計なので感染者数、死者数の推移がどうなのかを知る必要があります、緊急事態宣言の解除の指標としても重要です。

そこで、札幌医科大学フロンティア研ゲノム医科学が提供する「人口当たりの新型コロナウイルス感染者数推移」という有用なサイト¹⁾があるので、そのデータをもとに最近の傾向を分析してみます。

まず、世界の国別のデータですが、過去7日間の増加で見ると人口100万人あたりの感染者数はいずれも減少傾向です（ここでは、アメリカ（赤）、イギリス（紫）、イタリア（橙）、ドイツ（緑）、日本（薄紫）、韓国（薄緑）を表示しています）。

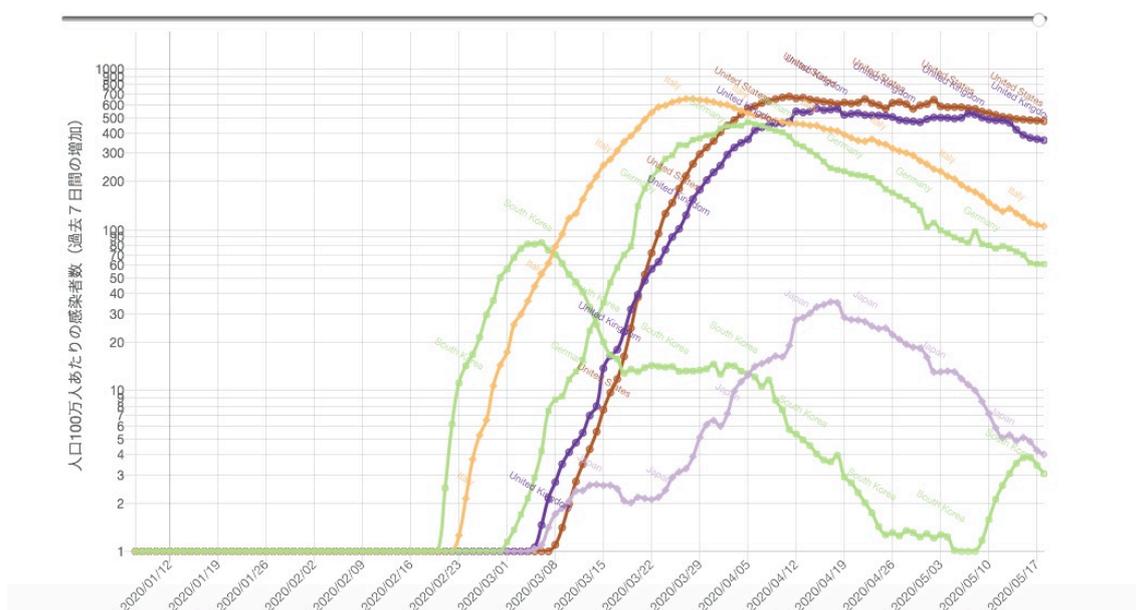


図1 人口100万あたりの国別感染者数（過去7日間の増加）

アメリカ、イギリスの減少は緩余ですが、イタリア、ドイツ、日本は明らかに減少傾向です。また、韓国は規制緩和により若干増加しましたが、最近再び減少に転じています。

この疾患は、8割は軽症で済みますが、残り2割が重症ないしは死亡する疾患です。そこで、死亡者の推移を見てみると、日本だけ横ばいの状態が続いていますが欧米は減少傾向で、韓国はほとんど0です。

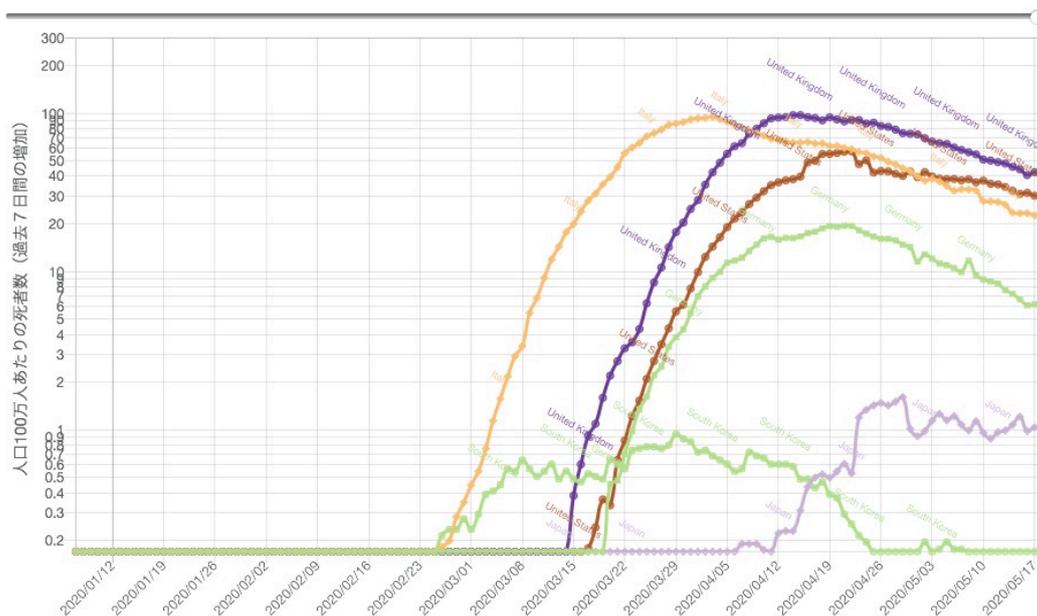


図2 人口100万人当たりの各国の死者数（過去7日間の増加）
日本国内の感染者数の推移はどうでしょうか。緊急事態宣言が出されている8都道府県の中で関西圏は明らかに減少しています。

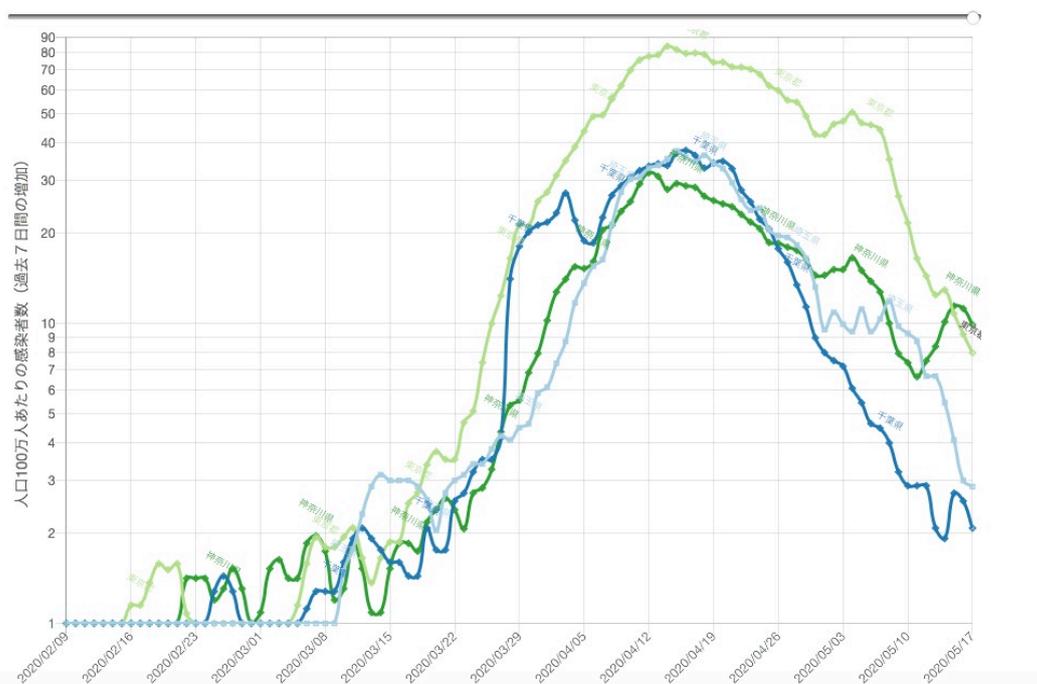


図3 首都圏の人口100万人当たりの感染者数（過去7日間の増加）

次に首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）の 7 日ごとの感染者数の推移を見てみます。神奈川（緑）と千葉（青）では再上昇がみられそれも減少傾向です。これは、高齢者施設での感染や院内感染の影響と考えられます（図 3）。東京も同様な状況があったはずなのですが、なぜか減少しています。

これをもとに K 値（7 日間の新規感染者数を累計感染者数で割った値）を出してみると、イギリス、アメリカでは 0.1 以上となり、まだ制限が必要な状況です。一方、首都圏では、神奈川県が 0.07 である以外は 0.05 以下（制限解除の基準値）ですが、首都圏ということにとらえると、緊急事態宣言の解除は先になりそうです。

首都圏	累計感染者数(人口 100 万人あたり)	新規感染者数(7 日間人口 100 万人あたり)	K 値
東京都	363.12	7.97	0.021948667
神奈川県	137.64	9.89	0.071854112
千葉県	142.51	2.08	0.014595467
埼玉県	134.15	2.86	0.021319419

表 1 累計感染者数と新規感染者数からみた K 値（5 月 18 日現在）

文献

1) <https://web.sapmed.ac.jp/canmol/coronavirus/index.html>

COVID-19 Q&A 29 2020/05/19

川崎高津診療所